

泌尿器科紀要

Acta
Urologica
Japonica

Vol. 51, No. 3 March 2005

ACTA
UROLOGICA
JAPONICA

ACTA UROLOGICA JAPONICA

Editor Emeritus : Osamu YOSHIDA

Editor : Osamu OGAWA

Deputy Editor : Noriyuki ITO

Advisory Committee

Susumu KAGAWA

Sadao KAMIDONO

Tadaichi KITAMURA

Takashi KURITA

Masaru MURAI

Seiji NAITO

Shin-ichi OHSHIMA

Taiji TSUKAMOTO

Hidetoshi YAMANAKA

Associate Editors

Hideyuki AKAZA

Shiro BABA

Haruo ITO

Katsusuke NAITO

Akihiko OKUYAMA

Hiroki SHIMA

Tsuguru USUI

Editorial Board

Yoichi ARAI

Yoshiaki BANYA

Eitetsu BOKU

Takashi DEGUCHI

Shin EGAWA

Tomoaki FUJIOKA

Masato FUJISAWA

Junnosuke FUKUI

Hideki FUSE

Momokazu GOTOH

Tomonori HABUCHI

Masamichi HAYAKAWA

Eiji HIGASHIHARA

Yoshihiko HIRAO

Shigeo HORIE

Kiyotaka HOSHINAGA

Tomohiko ICHIKAWA

Tatsuo IGARASHI

Mikio IGAWA

Kyoichi IMAI

Nobuhisa ISHII

Yoshiyuki KAKEHI

Hidehiro KAKIZAKI

Toshiyuki KAMOTO

Hiroshi KANAMARU

Hiroshi KANETAKE

Yoji KATSUOKA

Mutsushi KAWAKITA

Kenjiro KOHRI

Takuo KOIDE

Munekado KOJIMA

Atsuo KONDO

Yoshinobu KUBOTA

Hiromi KUMON

Masaaki KUWAHARA

Zenjiro MASAKI

Tadashi MATSUDA

Tetsuro MATSUMOTO

Masahiyo MATSUSHIMA

Hideyasu MATSUYAMA

Tsuneharu MIKI

Ikuo MIYAGAWA

Yoshinori MORI

Masayuki NAKAGAWA

Tatsuya NAKATANI

Mikio NAMIKI

Yasunori NISHIO

Osamu NISHIZAWA

Katsuya NONOMURA

Yoshihide OGAWA

Hiroshi OHE

Kenji OISHI

Yusaku OKADA

Tetsuro ONISHI

Yoshinari ONO

Seiichi OZONO

Kenji SHIMADA

Toshiaki SHINKA

Taizo SHIRAISHI

Taro SHUIN

Yoshiki SUGIMURA

Yoshifumi SUGITA

Koji SUZUKI

Masayuki TAKEDA

Mineo TAKEI

Hideo TAKEUCHI

Toshiro TERACHI

Akito TERAII

Ken-ichi TOBISU

Hiroshi TOMA

Yoshihiko TOMITA

Shoichi UEDA

Michiyuki USAMI

Kenji WAKAI

Hirohiko YAMABE

Satoshi YAMAGUCHI

Kosaku YASUDA

Masayoshi YOKOYAMA

Osamu YOKOYAMA

Tatsuhiko YOSHIKI

Managing Editor : Takehiko SEGAWA, Takeshi TAKAHASHI

Scientific Advisor : Mieko MIYAKAWA

Language Editor : Sumiko KAIHARA

Secretary : Kuniko OKUI

(2005.1.)

購読要項 (2005年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 一般会員は年間予約購読料10,000円(送料とも)を前納する。賛助会員は20,000円(送料とも)とする。払込みは郵便振替に限る。口座番号 01050-9-4772 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ泌尿器科紀要刊行会宛、はがきか FAX にて申し込めば所定の用紙を送付する。

投稿規定 (2005年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。原著、症例報告などは他の雑誌に発表されたことのない内容でなくてはならない。
 - (1) 総説、原著論文、その他の普通論文の長さは、原則として、刷り上がり本文5頁(400字×20枚)までとする。
 - (2) 症例報告の長さは、原則として、刷り上がり本文3頁(400字×12枚)までとする。
 - (3) 和文原稿はワープロを使用し、B5またはA4判用紙に20×20行、横書きとする。年号は西暦とする。文中欧米語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め(ただし、文節の始めにくる場合は大文字)、明瞭に記載する。
 - (イ) 原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名の順で和文で記載する。筆頭者名と、2語以内の running title を付記する。
例：山田、ほか：前立腺癌・PSA
 - (ロ) 和文の表紙、本文とは別に、英文標題、英文抄録をつける。標題、著者名、所属機関名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文(250語以内)の順にB5またはA4判用紙にダブルスペースでタイプする。別に抄録本文の和訳を添付する。
 - (ハ) 原稿は、和文標題、英文標題、英文抄録、その和訳、緒言、対象と方法、結果、考察、結語、文献、図表の説明、図、表の順に配置し、原稿下段中央部に和文標題ページを1とするページ番号を付ける。
 - (ニ) 原稿の作成にあたっては、泌尿器科用語集(日本泌尿器科学会編)に準拠すること。略語については本誌投稿規定前ページの「泌尿器科紀要略語一覧」を使用すること。
 - (4) 英文原稿はA4判用紙にダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、Key words(和文に準ず)、running title(和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、抄録本文の順に記した和文抄録を英文原稿の後に添付する。和文原稿と同様にページ番号を付ける。
 - (5) 図、表は必要最小限にとどめ、普通論文では図10枚、表10枚まで、症例報告では図5枚、表3枚までとする。

図、表、写真などはそれぞれ台紙に貼付し、それらに対する説明文は別紙に一括して一覧表にする。図、表のタイトルおよび説明文は可能な限り英文とする。原稿右欄外に挿入されるべき位置を明示する。写真はトリミングし、図・表は誤りのないことを十分確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい。様式については本誌の図・表を参照する。写真は明瞭なものに限り、必要なら矢印(直接写真に貼付)などを入れ、わかりやすくする。
 - (6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所引用文献番号を入れる。文献番号は本文の文脈順に付すこと(アルファベット順不可)。その数は30までとする。
例：山田^{1,3,7)}、田中ら^{8,11-13)}によると…
雑誌の場合 — 著者名(3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする)：標題、雑誌名、巻：最初頁-最終頁、発行年
例 1) Kälble T, Tricker AR, Friedl P, et al.: Ureterosigmoidostomy: long-term results, risk of carcinoma and etiological factors for carcinogenesis. *J Urol* **144**: 1110-1114, 1990
例 2) 竹内秀雄, 上田 眞, 野々村光生, ほか：経皮的腎碎石術(PNL)および経尿道的尿管碎石術(TUL)にみられる発熱について。泌尿器科 **33**: 1357-1363, 1987
単行本の場合 — 著者名(3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする)：標題、書名、編集者名(3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする)、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
例 3) Robertson WG, Knowles F and Peacock M: Urinary mucopolysaccharide inhibitors of calcium oxalate crystallization. In: *Urolithiasis Research*. Edited by Fleish H, Robertson WG, Smith LH, et al. 1st ed, pp 331-334, Plenum Press, London, 1976
例 4) 大保亮一：腫瘍病理学。ベッドサイド泌尿器科学、診断・治療編。吉田 修編。第1版, pp 259-301, 南江堂, 東京, 1986
 - (7) 投稿にあたっては、本誌を十分参考にして体裁を守ること。
 - (8) 総説、原著論文は4部、症例報告、その他の論文は3部を書留で送付する。万一にそなえて、コピーを手元に控えておくこと。
(原稿送付先) 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 泌尿器科紀要刊行会宛

3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。
4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円(税込)、英文は6,825円(税込)、超過頁は1頁につき7,350円(税込)、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円(税込)、6頁以上は1頁毎に10,500円(税込)を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 別刷：30部までは無料とし、それを超える部数については実費負担とする。著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

米国ウィスコンシン医科大学の小児科准教授が「近年、映画に登場する医師のイメージが損なわれている」とする研究レポートを専門誌に発表したという記事を読んだ。彼によると、昔の映画に登場する医師は聡明で勤勉な人物と描かれていたが、近年の映画のほとんどは、医師を強欲で、一般の人が愉快と思わないことを笑うような変人として描いているという。医師に対するイメージ悪化を懸念する彼の推奨する映画は、「赤ひげ(1965)」「ホスピタル(1975)」「救急病棟(1994)」などであるという。

日本ではどうだろう。「白い巨塔」が印象深いとしても、その中には良心的で勤勉な医師像も描かれている。米国ほどひどい状況ではないと思うが、今後徐々に同じような状況になっていくことが心配される。メディアの持つボディブロー的影響は想像以上に大きい。

ところで、泌尿器科医は映画にはあまり出てこない。テレビドラマに出たこともあまり記憶にない。そのなかで「泌尿器科医・一本木守」というコミック誌があるのをご存知ですか。女性漫画家書いているコミックで、現時点で9巻まで発行されているので暇な時にでも読んでみてはいかが。

(小川 修)